

山形新聞2012年7月15日に掲載!



イザベラ・バード愛した金山 街並み景観後世に

で確認
ポ再
シ意

金山町を明治時代に訪れた英国の女性旅行家イザベラ・バードの足跡をたどり、風景と調和した住みよい町づくりを探る「イザベラ・バード in 金山2012」が14日、同町役場で開かれた。講演やパネル討論を通して次世代に残す街並み景観づくり

の大切さや意義を再確認した。写真。

町内外から約140人が出席。ドイツ文学者でエッセイストの池内紀氏が「日本の町、ドイツの町」と題して基調講演。この後、NPO法人「元気・まちネット」の矢口正武代表理事をコーディネーターに、アルカディア街道 I・B イザベラ・

バード)倶楽部の渋谷光夫副会長、元気・まちネットの佐野千晶理事、広告プランナーの浅倉かおりさん、蔵の会代表&街並み案内人の阿部一代さんの4人が「バードの愛した金山」をテーマにパネル討論した。

この中で「人々の暮らしが伝わる街並み景観が金山の魅力であり、県内でも独特だ」「景観に対する町民の意識の高さが伝わる」「街並みや建物を次世代に伝えるためにも町で線

り広げる『まちづくり100年運動』をしっかりと進めてほしい」などの意見や提案があった。

15日は上台峠、森合峠などを歩き、バードの足跡をたどる。